


主体的・対話的で深い学びの実践シート（農業・水産）

1 日時・場所	令和元年10月2日（水）2限	1年 海洋資源科 HR
2 対象・人数	1年 海洋資源科 38名（栽培漁業コース18名，海洋環境コース20名）	
3 科目・単元名	水産海洋基礎	船舶の基礎
4 本時の目標	船舶の基礎知識を習得することにより，水上移動や輸送に欠かせない交通手段である船舶を活用した安全な航海ができる。	
5 生徒の実態や課題	<p>水産海洋基礎は，海洋漁業，海洋工学，情報通信，資源増殖，水産食品の分野の基礎的・基本的な内容を学ぶ科目である。実施クラスである海洋資源科の生徒は水生生物に対する興味が高い一方，海洋工学や情報通信などの他分野には興味や関心を示す生徒が非常に少ないのが現状である。</p> <p>水産を学ぶには，海洋資源分野系以外の知識や技術も重要であることを認識させ，主体的に学習に取り組む態度を養いたい。</p>	
6 主体的・対話的で深い学びの場面	<p>グループワークを交えながら授業プリントへ記録を残していく。振り返りの時間は特に重要な場面であるため，記録を残しながら進行するように促す。最後にまとめ，振り返りとして代表の者に発表する機会を与え，他者へ伝える技術を養う場面とする。また聞く側の態度を養う場面ともする。</p>	
7 今回の研究副題	グループワークの実践と検証	
8 準備・打ち合わせ	<p>① グループワーク 書き込みプリント，アンケート</p> <p>② 教材 水産海洋基礎の教科書，参考プリント</p> <p>③ 準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の授業を前に生徒の現状を把握するため，アンケートを実施 ・今回の授業が生徒に与えた影響を把握するため，事後にアンケートを実施 ・授業目的の達成や円滑な授業展開のため，授業プリントを作成 	
9 仮説	<p>① グループワークを行うことで，周囲の生徒同士で対話を行い，相互の理解度を確かめあって教え合いの輪が広がり，理解度が向上して生徒の学習意欲が高まるだろう。</p> <p>② 授業の要所でプリントを活用してグループワークを行うことで，疑問や課題を生徒同士で共有し，問題を解決するための姿勢を養うことができるであろう。</p>	

10 評価するポイント	評価の観点	A (十分に満足)	B (おおむね満足)	C (努力を要する)
船舶利用について興味・関心をもち、協議に主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	関心・意欲・態度	船舶利用について興味・関心をもち、協議に積極的に取り組むことができる。協議の成果に関心をもち、適切にまとめることができる。	船舶利用について興味・関心をもち、協議に積極的に取り組むことができる。	船舶利用について興味・関心をもち、協議に参加することができていない。
11 主体的・対話的で深い学びの場面等				
12 生徒の変容	<p>生徒は授業プリントに自分の考えや知識を記入した後、他者と意見交換を行うことで新たな気づきや発見をしていた。異なった角度から物事を捉える力を養うことにも繋がっているように感じる。</p> <p>授業実践後、漕艇実習を行った際には生徒自ら発問してくる機会が増加した。今回の授業実践が船舶の基礎知識の習得のみに留まらず、実習授業への意欲向上に繋がったと感じる。</p>			
13 検証と考察	<p>船舶の基礎知識を習得させるという目標については、概ね達成することができたと感じている。授業でグループワークを行ったことにより、発問に対する挙手数が増加するなどの生徒に意欲の変化が現れていた。今後、より高度な知識や技術を習得することが求められるので継続して高い意欲をもたせ、主体的に学ぶ姿勢を保つためには、グループワークのような多くの工夫が更に必要であると感じる。</p>			
14 振り返りと改善	<p>グループワークを実施することで、班員と協同して意見を出し合い課題に対して良好に取り組む姿勢が見受けられ、小型船舶に関する理解度を高めることができた。</p> <p>改善点としては、グループワーク、授業プリントや事前・事後アンケートの記入などで十分な授業時間を確保できなかったことである。授業時間は有限であるため、全員の意見を授業内で確認することは困難である。グループワークの特長を生かしながら要点を押さえ、可能な限りの方策を検討していきたい。</p>			